

わがまち紹介



笠間市

歴史と先進性が融合した
求心力のあるまち

合併20年の変化と手応え

2006年に1市2町(旧笠間市・友部町・岩間町)が合併して新「笠間市」が誕生し、2026年3月19日に合併20周年を迎えました。20年にわたり市長を務めさせていただいた中で、時代の大きな変化を感じています。特に顕著なのは少子化の進行で、20年前に比べ出生数は約半分となり、人口減少がもたらす様々な地域課題が浮き彫りとなっています。少子化は日本全体が直面する課題であり、一気に克服することはできませんが、子育て支援や女性が働きやすい環境づくりなど、社会全体のしくみや意識を変えていく必要があるため、本市でも率先して取り組んでいます。

一方で、深刻な状況の中にも明るい兆しがあり、本市では2025年の出生数が6年ぶりに増加に転じました。社会動態においても、2022年から転入超過の傾向が続いています。これは、一貫して進めてきた子育て支援

をはじめ、教育、保健・福祉、都市基盤などの総合的な施策の効果が現れてきたものと受け止めています。転入者には外国人も含まれており、本市では市内で働く外国人を対象とした日本語講座を実施し、語学を通して日本の生活習慣を教えるなど共生に向けた取り組みもしています。

また、本市は交通インフラに恵まれています。常磐自動車道に加え、合併後に北関東自動車道が開通し、市内には高速道路のインターチェンジが岩間IC、友部SAスマートIC、友部IC、笠間西ICと4つあり、5つ目となる笠間PAスマートICを現在整備中です。鉄道はJR常磐線とJR水戸線が乗り入れています。このような交通利便性の高さも、転入者数の増加、交流人口の拡大、企業誘致の促進につながっていると思われます。



株式会社筑波銀行
笠間エリア友部支店長
根本 光雄

笠間市長
山口 伸樹 氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県笠間市です。笠間エリア友部支店長 根本 光雄が笠間市長 山口 伸樹氏にお話を伺いました。

栗栽培や有機農業を推進

本市の基幹産業である農業の振興には力を入れています。年間約10人、多い年は約15人の新規就農者があり、農業法人を立ち上げるなど意欲的に活動しています。一方で、農家における後継者不足が課題となっています。その対応策として、離農時に圃場を笠間市農業公社が借り入れ、農地の流動化を進めています。それにより耕作放棄地を減らし、就農を希望する第三者が圃場を活用する道を開いています。合わせて、生産性の高い農業を確立するために不可欠なのは、圃場整備、農道整備、灌漑排水施設の整備などの土地改良がなされていることです。その点、本市では土地改良を実施した圃場が約8割にのぼり、効率的で安定した農業基盤が整備されています。

特に、農業振興策として積極的に推進しているのが栗の栽培です。本市は日本一の栽培面積と経営体数を誇り、年間を通して穏やかで昼夜の温度差がある気候や保水性・通気性に優れた火山灰土壌から美味しい栗が育まれます。栗のブランド化を強化するため、去年、笠間市農業公社が所有する栗畑約25haのうち約18haで、栗栽培では非常に稀な有機JAS認証を取得しました。また、栗農業の担い手を目指す方を地域おこし協力隊として受け入れ、3年間学んで独立する際に、栗農家の遊休農地を貸し出していきたいと考えています。



有機JAS認証対象の栗畑

さらに、栗に限らず有機農業をはじめとした「環境にやさしい農業」を地域全体で推進していくため、笠間市有機農業実施計画を策定し、2024年12月6日に「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。有機栽培をしている約20軒の農家のうち約3割が学校給食に協力し、米については3年後には市内の全小中学校で提供できる予定です。

学校給食を有機栽培の食材だけで賄うことを目標としていますが、葉物野菜についてはまだ十分な量を確保できていません。当面は地元産に加え、県内産の有機野菜を使っていくことになります。ただし、市内の有機栽培農家を支援する意味でも、将来的には地元産ですべて賄えるようにしたいと思っています。

脱炭素先行地域に選定

本市は今年2月、国の脱炭素先行地域に選定されました。2050年カーボンニュートラルに向けて、地域の特性を活かしつつ温室効果ガスの削減に取り組み、全国のモデル地域として「脱炭素ドミノ」の起点となることが期待されています。

選定された事業計画に基づき、本市と笠間焼協同組合、民間企業等の共同出資により、地域支援エネルギー会社を設立します。国の選定地域に対する手厚い補助を活用し、駐車場、学校、農業用溜池などに太陽光発電パネルを設置し、安価な再エネ電力を特定のエリアに提供します。

また、地域課題となっている栗剪定枝の処理に取り組みます。チップ化した栗剪定枝を燃料とするバイオマスボイラーを給食センターに導入し、給湯などを賄います。さらに、副産物の焼却灰を笠間焼の釉薬として活用し、地域資源循環と環境配慮を強みにした笠間焼の高付加価値化を図ります。

さらに、作陶家の修行モデル工房のZEB化(快適な室内環境を実現しながら消費エネルギー・ゼロを目指した建物を実現すること)にも取り組みます。

アーバンスポーツの先進地に

スポーツ振興については、既存のスポーツ活動を大切にしながら、若者の注目を集めるアーバンスポーツの先進地づくりに取り組んでいます。その中心となっているのは、2022年に官民で設立した一般社団法人笠間スポーツコミッションです。2021年に笠間芸術の森公園に整備した日本最大級のスケートパーク「ムラサキパークかさま」では、スケートボードやBMXの大規模な大会や体験会を開催しています。また、同公園の野外コンサート広場では、県内最大規模のブレイキン(ブレイキングダンス)大会を年1回開催しています。大会関係者が小学校で体験会を実施しており、子どもたちの人気を集めています。



「オブスタクルスポーツ」の施設を整備

さらに、同公園内にアーバンスポーツの新たな拠点として「オブスタクルスポーツ」の施設を整備します。様々な障害物(オブスタクル)をクリアしてタイムを競う競技は、2028年のロサンゼルス五輪から近代五種の新種目として採用されます。オブスタクルコースの距離は、五輪が70m、世界大会が100mで実施され、本市では東日本で初となる100mの競技施設を整備する計画です。現在は設計段階ですが、ロサンゼルス五輪前には整備を完了し、デモンストレーション大会を開催して、機運を盛り上げたいと思っています。将来的にはスケートパークとオブスタクル競技施設を一体的に運用し、スポーツを通じて若い世代が集うまちにしていこうと目指します。

笠間スポーツコミッションを設立したことにより、既存のスポーツに関してもより柔軟な展開が可能となりました。その一例が、本市に縁が深い合気道体験を中心とした武道ツーリズムです。これまでも小規模な武道ツーリズムは実施していましたが、今後は国の補助事業として公益財団法人合気会茨城支部道場や旅行会社と連携し、武道と歴史・文化・食など地域の魅力を結びつけたイベントとして大々的に展開していく計画です。

歴史散歩で観光消費拡大

本市の観光の中心、笠間稲荷周辺地区では、門前通りの石畳整備や井筒屋旅館の観光拠点化、住民主体による景観整備、商店・飲食店の誘致などを進めてきた結果、若者や外国人観光客を含め、多くの人で賑わうようになりました。その一方で、滞在時間が短く、観光消費を拡大する余地はまだあると考えています。

そこで、2026年度は井筒屋旅館から大石邸跡までをつなぐ遊歩道を整備します。大石邸跡と笠間日動美術館に隣接する公営笠間稲荷駐車場は、西にメインストリートである門前通りがあり、東に佐伯山麓公園と笠間城跡、北には正福寺、笠間市立つつじ公園があります。いずれも歩いていける距離であるため、遊歩道が整備されると回遊性が高まり、笠間の歴史や文化をより深く知っていただくとともに、食事や買い物をもっと楽しんでいただけるようになると思います。また、遊歩道の一部には大正時代に笠間駅から笠間稲荷神社までの参拝客輸送を主目的に運行されていた人車軌道を設置し、にぎわいの創出を図ります。



市民の皆さんにより復元された人車軌道

地域の個性で観光誘客促進

観光は笠間にとって主要産業であり、観光振興に関する様々な取り組みをしています。特徴的な事業の一つに、ふれあい教育旅行があります。これは、千葉県出身の元中学校長が、地域おこし協力隊として笠間に来て始めたもので、NPO法人「笠間の魅力発信隊」として息の長い活動を続けています。首都圏の中学生をメインに小学生から大学生までを対象として、1軒の民家で3～4人ずつを受け入れ、家業(農業、陶芸、店舗他)を体験していただきます。受け入れる住民側と体験に来た子どもたちの双方に非常に評判が良く、今後も積極的に取り組んでいきます。

また近年は、その土地で育まれた豊かな食とともに、地域の歴史や文化をセットで楽しむガストロノミーリズムが注目されています。本市でも、食を中心とした新しい観光を盛り上げていこうとしています。例えば、かき氷、鯛焼き、豚肉料理、栗のスイーツなどを提供するお店に、年間数十万人の来客があります。食を目当てに訪れた方を観光に結びつけることができれば、非常に大きな効果が見込まれます。食を通した観光拡大を図るため、本市では手厚い創業支援制度を設け、個人で新たに开店する方に最大300万円、さらに笠間焼や稲田石といった地場産材を活用する方には別枠で補助金を交付しています。

地域の生活を支える個人事業主

本市は、商工会の会員数がつくば市に次いで県内2番目で、サービス業の個人事業主が多い地域です。市の創業支援制度と併せ、商工会を通じた活動支援が非常に重要となっています。市内には、日用品や生鮮食品を販売する店舗が少ないエリアがあり、その地域の生活を守るため出店を支援することが求められています。市では商工会と連携し、大型店だけでなく、個人店が分散して地域が成り立つ形をつくりたいと考えています。

筑波銀行に期待すること

地域金融機関は地域の経済を循環させる上で非常に重要であり、対象となる方々に寄り添い意見や要望を吸い上げていただきたいと思います。また、本市では事業承継が課題となっており、県央地域9自治体の連携による取り組みもしていますが、打開策が見つからないケースが数多く存在します。そのため、豊富な知見を有する筑波銀行さんと市や商工会が連携し、情報を共有しながら地域の事業継承を進めていければと考えています。今後も筑波銀行さんのご支援を期待しております。

(取材日:2026年6月16日)

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

栗

栽培面積と栽培経営体数がともに日本一の栗産地・笠間市。気候と土壌の条件がそろっている笠間の栗は、甘みが強く薫りも高いため、全国の名菓子店でも使用されています。多くの人に親しまれる笠間の代表的な秋の味覚です。



わがまちの
ふるさと納税

笠間市

モンブラン

「笠間の栗」をふんだんに使用したモンブランは大人気のスイーツです。各店舗が栗本来の風味を生かし、こだわりの製法で仕上げるモンブラン。店舗ごとの食べ比べもおおすすめです。



米

豊かな土壌ときれいな水、昼夜の寒暖差の中で育まれたおいしい笠間のお米。噛むほどにうまみと甘みが広がります。生産者が丹精込めて育てたこだわりのお米をご賞味ください。



ゴルフ

「ゴルフのまち笠間」として世界で活躍する選手も輩出する笠間市。名門コースをはじめ、有名ゴルフ場が数多く立地しています。地形を生かした質の高いコースが特徴で、美しい景観の中で四季を感じながら、快適なプレーをお楽しみいただけます。



笠間焼

250年以上の歴史を誇る笠間焼。伝統にとらわれず、自由な作風や多様性が尊重されることから、全国各地から陶芸家が集まり、現在では約300名の作家が活躍しています。



梨

みずみずしい果汁と豊かな甘みが魅力の梨。幸水・豊水・あきづき・新高など、収穫時期により様々な品種をお楽しみいただけます。



うなぎ

厳選した新鮮な国産うなぎを使用し、職人が一尾一尾丁寧に焼き上げています。160年受け継がれる秘伝のたれとともに、ふっくらと香ばしく上品な味わいをご堪能ください。



笠間市公式HP



楽天



ふるさとチョイス



さとふる

Kasama-city

Kasama-city